

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 6校時

対 象 2年6組 男18名、女17名 計35名

指導者 小野 佳子

1 単元名 自分を見つける(教材名 「走れメロス」)

2 単元の目標

第2学年の目標

目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。

- (1) 作品を読み、登場人物の行動や考え方について自分の考えをもつことができる。
- (2) 描写や会話に注目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わうことができる。

3 単元の評価規準

観 点	B：おおむね満足できる
国語への関心・意欲・態度	作品について感想をもち、交流して考えを深めようとしている。
読む能力	描写の効果や登場人物の行動の意味などを考えて作品の内容を理解し、自分の感想をもっている。(イ) 作品に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて感想などを記事にまとめ、交流して深めている。(エ)
言語についての知識・理解・技能	作品によって文章の形態や展開に違いがあることを意識しながら読んでいる。(イ(オ))

4 単元について

(1) 生徒について

本学級は、授業に対して積極的な生徒が多い。挙手発言に限らず、グループ活動においても自分の考えを話すことができる。しかし、学習面での個人差が大きく、配慮を要する生徒もいる。生徒は、1年生で「にじの見える橋」「星の花が降るころに」「大人になれなかった弟たちに……」や「少年の日の思い出」等の作品を通して、それぞれの作品の描写の特徴や、文章に表れているものの見方や考え方について学習してきている。しかし、文学的文章の読み取りに対する苦手意識や、自分の考えがほかの生徒と違うことを嫌がる傾向もみられる。

そこで、本単元では、多様な側面からの、登場人物の心情や文章の解釈を、グループ学習を中心に学習を進めながら、個人では難しい課題を集団で乗り越えることを経験させたい。

(2) 教材について

本教材の特徴は、単純なストーリーにも関わらず、読み手の多様な読みを引き出す力を持つところにある。また、詳細な心理描写で人間の内面を描くという文学的表現に優れた作品ともいえる。人間の内面の揺れや葛藤、苦悩、変化の過程などを読み取る行為は、登場人物の理解につながり、読み手に「おもしろさ」を呼び起こす。生徒の発達段階とも重なり、生き方や心の戦いの意味、真の人間性など、多くのものを示唆してくれる。また、豊かな言語表現やリズムカルな文体から、文

学の醍醐味を味わうことができる。

(3) 指導について

本単元では、「作品から発せられるさまざまな価値を読み手なりに捉える力」を身に付けるため、「メロス新聞をつくる」という言語活動を位置付ける。

メロス新聞には、「あらすじ、お気に入りの場面、人物の共通点や相違点、人物の考えの変化、真の勇者は誰か」といった記事を書く。このことにより、描写の効果や登場人物の行動の意味などを考えて作品を読むことができるようになると思う。

「場のつながり」としては、生徒が発表する際の文末表現に注意して話すようにさせたい。

「教材のつながり」として、本単元は、1学年の「にじの見える橋」「星の花が降るころに」「大人になれなかった弟たちに……」「少年の日の思い出」、2学年の「アイスプラネット」「旅する絵描き」「盆土産」等の学習を受け、もっとも長編の作品に触れる機会となる。小学校での学びや指導過程を生かし、第一次で単元を貫くめあてをもたせ、第二次でそのめあてを常に意識しながら読む力を育て、第三次でゴールとしての表現活動を行っていく。生徒は国語の授業以外で文学的文章に触れる機会が多いとは言えない。本単元がきっかけとなり、読書生活が豊かなものとなるよう、指導していきたい。

「人のつながり」としては、「自分の考えをもつ」場面として、意見交流を行う前に、自分の考えを記述させる場面を設定する。また、「互いの考えを交流する」場面として、4人グループでの意見交流をする場を設定する。「互いの良さに気づく」場面として、意見交流する際に、他者の考えを聞くことで、自分の考えを深める意欲を持たせるような指導をしていきたい。

5 単元の系統と他教科との関連

領域	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年
読むこと	<ul style="list-style-type: none">・ あめ玉・ のどがかわいた・ 大造じいさんとガン・ わらぐつの中の神様	<ul style="list-style-type: none">・ カレーライス	<ul style="list-style-type: none">・ にじの見える橋・ 星の花が降るころに・ 大人になれなかった弟たちに……・ 少年の日の思い出	<ul style="list-style-type: none">・ アイスプラネット・ 旅する絵描き・ 盆土産・ 走れメロス

6 単元の指導計画（8時間扱い）

- (1) 単元の目標や学習の流れを確認する。全文を通読し、印象に残った場面を交流する。（1時間）
- (2) 構成をとらえ、作品の大体を確認する。（1時間）
- (3) メロスとディオニスの共通点と相違点を考える。（1時間）
- (4) メロスはどのような困難・誘惑と闘ったのかを考える。（1時間）本時
- (5) 登場人物への評価を行い、真の勇者は誰かを考え、意見を交流する。（1時間）
- (6) 学習してきたことを記事として再構成し、「メロス新聞」を書く。（2時間）
- (7) 書いた新聞を互いに読みあい、見方や考え方を広げる。（1時間）

7 本時について

(1) 目標

描写や登場人物の会話・行動を根拠とし、それぞれの困難や誘惑を比較・検討し、その特徴を明らかにすることができる。〈読む能力〉

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「お互いの考えのよさに気づく^気」場面

本時の「自分の考えをもつ」場面として、意見交流を行う前に、自分の考えを記述させる場面である。また、「互いの考えを交流する」場面として、4人グループでの意見交流をする場面である。「互いの良さに気づく」場面として、意見交流する際に、他者の考えを聞くことで、自分の考えを深める意欲を持たせるような指導をしていきたい。

(3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点（方法）
導入 10分	1 前寺の学習内容を想起する。 2 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メロスが戦った困難や誘惑の中で、最も乗り越えるのが大変だったものは何だろうか。</div>		○「メロス新聞」の作成と結びつける。 ○メロスの3日間の行程を振り返り、課題解決の糸口にする。 ○話し合った後それぞれの考えを書くことを示す。
展開 30分	3 どのような困難や誘惑と戦ったのかを書き出す。 4 困難や誘惑をどのように乗り越えたのかを書き出す。 5 乗り越えた方法をグループごとに出し合い、比較・検討する。 6 交流の中で出た意見を発表する。	^自 ^自 ^交 ^気	○前時までのワークシートと教科書を参考にさせる。 ○困難や誘惑をどのような方法で乗り越えた部分に注目させ、短い言葉で言い換える。 ○乗り越えるのが大変だった順番とその理由を話し合い、共通点と相違点を明らかにするとともに、納得できた部分を交流する。 ○誰のどんな意見がもっとも納得できたか、自分と違う意見にはどんなものがあつたかを発表させる。
終末 5分	7 学習のまとめをする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最も乗り越えるのが大変だった困難・誘惑は、「疲労」である。「未練の情」、「山賊」、「濁流」は、意志の力や体力で乗り越えることができた。しかし、「疲労」は、水の流れる音が「ふと」聞こえなければ乗り越えることができなかつたのである。つまり、幸運な偶然がなければ、乗り越えることができなかつたと考えられるからである。</div>		○グループから出た意見をもとに、学習のまとめをする。 ●描写や登場人物の会話・行動を根拠とし、それぞれの困難や誘惑を比較・検討し、その特徴を明らかにすることができたか。（ワークシートへの記入） ○本時の学習を記事にする場合の視点を与えるとともに、次時の予告として、「なんだか、もっと恐ろしく大きいもの」とは何か、「真の勇者はだれか」を考えることを伝える。
	8 次時の学習内容を確認する。		

(4) 板書計画

走れメロス
太宰治
学習課題

メロスが戦った困難や誘惑の中で、最も乗り越えるのが大変だったものは何だろうか。

困難(1) 未練の情

↓ 意志の力

困難(2) 濁流

↓ 体力(意志)

困難(3) 山賊

↓ 体力(意志)

困難(4) 疲労

↓ 水の音「ふと」……偶然

(困難(5) フィロストラトスの誘惑)

↓ なんだか、もっと恐ろしく
大きなもの

まとめ

最も乗り越えるのが大変だった困難・誘惑は、「疲労」である。「未練の情」、「山賊」、「濁流」は、意志の力や体力で乗り越えることができた。しかし、「疲労」は、水の流れる音が「ふと」聞こえなければ乗り越えることができなかったのである。つまり、幸運な偶然がなければ、乗り越えることができなかったと考えられるからである。